

2018 年度夏期ドイツ語研修報告書

人文社会学部人文学科 1 年 三堀遼太

皆さん、こんにちは。以下は、私が参加した夏期ドイツ語研修の簡単な報告書ですが、特に今後短期研修に参加することを考えている人に向け、書いていきたいと思います。

【事前学習と現地での学び】

私は、大学入学後にドイツ語を履修するまで、ほとんどドイツ語には触れてきませんでした。ですから、勉強期間5か月で現地に行くことになった訳です。加えて、他のやる事との兼ね合いもあるので、特にリスニングに関してはほとんど準備していませんでした。そんなことで大丈夫なのかという話ですが、このウィーン大学での語学研修には初学者も参加しているので学習のレベルに関する心配は必要ありません。

とは言え、できれば上のクラスで授業を受けたいですね。私は、初日のクラス分けテストで不出来であったため一番下のクラスに配属されましたが、クラス変更のテストを後日受けて一つ上のクラスに移動しました。逆に、下のクラスに変更することもできます。自分に合った環境で学ぶことができるのです。

授業は基本ドイツ語で行われます。現地で購入した教科書を中心に進みましたが、適宜文法のプリントが配られたり、パートナーワークやスピーキングチェックを行ったりしました。ただ、担当の先生によって異なるでしょうから一概には言えません。

クラスには日本以外の国からの生徒もたくさんいます。彼らとも基本的にドイツ語で会話するのですが、やはり会話能力の差を痛感させられます。文法は基礎事項を押さえておけば大丈夫なので、事前学習ではリスニングとスピーキングを練習しておいた方が良いでしょう。リスニングは、CD 教材やラジオを活用して、耳を慣らして、自分で発音してみると良いと思います。スピーキングは、学んだ文法を実際に運用してみたり、授業で使いそうなフレーズ(例えば、“Warum ist das Akkusativ?”のような)を覚えておいてシミュレーションしておくとも良いかもしれません。これらは全て私がやっておけばよかったなと思ったことです(笑)。



教科書(左)と現地で購入した本(右)

いずれにせよ、大切なことは今の自分の語学力を肯定したうえで積極的に学ぶということかなと思います。月並みではありますが、できないことや分からないことは恥ずべき事ではないので、肩肘張らずに謙虚に学習を進めましょう。

【ウィーン観光と生活】

授業は平日の午前だけなので、平日の午後と休日はフリータイムです(宿題はありますが…)。私も、様々な場所に行きました。因みに、ほとんどの観光スポットは近距離にあるため、歩いて回れるのではないかと思います(私の場合、公共交通を一度も使いませんでした)。

行った場所は、自然史博物館、美術史美術館、レオポルド美術館、世界博物館、ウィーン軍事

史博物館、オーストリア国立図書館、などなど。まず歴史のある建物自体が美しいですし、展示物も、興味を持っていたものとの感動的な邂逅や新しい発見・知識の獲得があり、刺激的でした。また、オペラを見に行ったり、クラシックコンサートを聴きに行ったりもしました。オペラは当日立見席でなんと 3 ユーロです。早くから並ぶと少し疲れますが、その価値はあると思います。コンサートは学友協会の黄金ホールでのもので、響きが格別でした。

普段の食事はスーパーでの食品の購入や自炊でした。スーパーやコンビニは日曜日には閉ま



とあるカフェにて

っているの、買い出しは土曜日のうちに済ませておきましょう。ただし、市中心部には日曜日でも空いている店があります。また、カフェやレストランもたくさんありますので、財布と相談しながら楽しんでみると良いでしょう。多くの店ではクレジットカードが使えますが、現金のみの所もあるので、たくさん使う人は200～300ユーロぐらい持っておくと安心でしょう。

買い物・お土産に関して私がおすすめしたいのは、書店です。Mariahilfer Straße の Thalia という店はウィーンでも一番の大きさらしく、様々なジャンルの本が揃っています。自分が専攻している分野の本や気になっているドイツ語圏の原著を買ってみてはいかがでしょうか。

【短期留学の良さ】

このドイツ語の短期研修は 3 週間です。大学生の貴重な夏休みを使うので決して短いとは言えませんが、学習に関して言えば不十分な期間と言わざるを得ません。ですが、逆にあまり畏まらずに参加できるという面もあります。

私も、国際課に提出した志望書にはそれらしいことを色々書きましたが、実際には一度海外に行ってみたいという思いが大きかったのです。長期留学となると、明確な目的意識や一定程度の語学力、そしてなりより強い意志が必要になると思いますが、短期であれば、とりあえず行ってみるという心持でも良いと思います。まだやりたい事が決まっていなかったり、目的意識が持てないという人の方が寧ろ、得るものが大きいかもしれません。

最後に、少し気になるという方は学年関係なく参加してみingことをおすすめします(この報告書を読まれている方は少なからず関心があると思うので)。ドイツ語研修に限らず、少なくとも短期に関しては大学の方で諸々の手続きはしていただきますし、現地でもバックアップの体制はできています。ですから、不安なこともあるとは思いますが、是非現地での学習・生活・観光を楽しんでください。

では！



学友協会（左）とカールス教会（奥）